

第23回放射光学会年会・放射光科学合同シンポジウムを終えて

実行委員会 高田昌樹 (RIKEN/SPRING-8)

第23回放射光学会年会・合同シンポジウムは2010年1月6日(水曜日)から9日(土曜日)まで、4日間にわたり、兵庫県姫路市の「イーグレひめじ」で開催されました。最終的な参加者数は607名、懇親会参加者289名、企業展示41社となり、昨年の20周年記念大会とほぼ同じ規模となり、盛会のうちに終えることができました。

本年会では、例年の3日間から、4日間と会期が一日長くなりました。そのため、4つの企画講演がパラレル講演となることなく、参加者がすべての企画講演を聴講できるように、後藤俊治プログラム委員長がプログラムを構成してくれました。4つの企画講演『放射光による高難度ターゲット構造生物学研究への挑戦』、『XFEL プロジェクトこの一年』—XFEL 利用の展望—、『大気圧実験環境が切り拓く、軟X線光科学の新展開』、『競争的資金による放射光先端計測技術開発の現状と将来展望—放射光先端計測技術開発のニーズとシーズの探索のために—』は、いずれも、内容の濃いもので参加者とのやり取りも充実していたように感じました。ここ数年増加する傾向にある企画講演の数を、本年会で精選したことは、今後の年会運営に対する一つの試金石になったと考えます。

特別講演では、兵庫県立大学の月原富武先生に「大きさと精密さに挑む生体超分子の結晶構造解析」、産業界からは、東洋紡績株式会社の矢吹和之博士に「新素材開発におけるモルロジー解析の重要性について」について御講演いただきました。どちらの講演も、講演終了後は、満杯の会場の参加者から多くの質問が寄せられ、放射光科学の新しい展開を、強く参加者に印象付けました。一般講演、ポスター発表会場も盛会で、それぞれの講演会場では、参加予測を大幅に超える皆様に参加いただき御不便をおかけしてしまいました。次回の開催を計画するうえでの反省点としたいと思っております。

年會に合わせて、理化学研究所放射光科学総合研究センター XFEL 計画合同推進本部の主催による市民公開講座「こんな分野もあった！あなたの知らない科学」も、姫路市民会館2階大ホールで9日の最終日に開催され、多数の参加者を得ました。会場の暖房設備が老朽化により故障するというアクシデントはありましたが、理化学研究所知的財産戦略センターの辨野義己研究員による「見た目年齢は「腸」で決まる！～大切な腸内環境コントロール～」と題するユニークな講演と XFEL 計画合同推進本部光源研究開発グループディレクター北村英男氏による「X線解体新書～レントゲンから XFEL まで～」という一般向けの講演により、XFEL の拓く未来についても地元市民



写真1 オーラル A 会場での発表



写真2 オーラル B 会場での発表

の方々に理解を深めることができ、「放射光」の一般市民への親しみを広げる上で、大きな効果があったものと思われれます。

懇親会は、初めての試みとして、予算規模と利便性を考慮し、結婚式場を活用いたしました。結婚式場の御好意による演出等もあり、これも盛会のうちに終了いたしました。結婚式場開催で得たメリットは、会場の構成が、10人程度用の円卓を会場にたくさん配置し、料理が人数分、各テーブルに配膳された形での立食形式をとることができたということです。これにより、参加者の会話が、料理をとるための行列で中断されることなく、懇親会として非常に快適なものとなったことは、予期せぬ収穫でした。食事だけでなく、参加者の情報交換を、ゆったりとした時間で



写真3 ポスター発表会場



写真5 懇親会での鏡割り



写真4 懇親会会場スナップ

楽しめていただけ、多くの参加者より、感謝のお言葉をいただきました。

前回の姫路での開催では、新米の行事幹事として参加

し、放射光学会独特の雰囲気戸惑うことが多かったため、今回の年会の成功は私にとって感慨深いものでした。これも、参加者の皆様、企業展示会に出展いただいた企業の皆様、姫路市役所、「イーグレひめじ」の関係者の方々、山本雅貴組織委員長、放射光学会事務局の皆様の御協力のおかげです。プログラム委員長の後藤俊治氏（JASRI/SPring-8）は、企画講演の精選、効率の良い会場配置等の決定にリーダーシップを発揮し、本年会を成功に導いたプログラムの作成の指揮を執ってくださいました。ここに謝意を表します。加えて、副実行委員長の木村洋昭氏（JASRI/SPring-8）、JASRI 研究調整部の鈴木昌世部長、八木克己課長は姫路市役所及び、「イーグレひめじ」と会場利用に関する綿密な打ち合わせを幾度となく行ってくださいました。円滑な学会開催は、JASRI 研究調整部、JASRI/SPring-8、RIKEN/SPring-8、兵庫県立大学の皆様の、事前準備も含めた会場運営の多大なる貢献により成し遂げられたことを、ここに付言しておきます。